

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

3年ぶりに月例給、一時金ともに引き上げ勧告 すべての教職員の賃金引上げの実現を！

2022府人事委員会勧告

10月13日、大阪府人事委員会は、知事と議会に対して「職員の給与等にかんする報告及び勧告」をおこないました。その内容は、今年4月時点の比較で、月例給、一時金（ボーナス）ともに民間給与を下回っているため、3年ぶりにどちらも引き上げの勧告をしています。

3年ぶりの引き上げも生活改善にほど遠い内容

今回の勧告は、3年ぶりに月例給、一時金ともに引き上げる内容となっていますが、引き上げ額は非常に少なく、昨今の物価上昇からみても生活改善には程遠い内容です。しかも、今回の引き上げは、初任給と若年層（20歳代半ば〜30歳代前半）に限定しており、中堅・ベテラ

【勧告のポイント（抜粋）】

1. 月例給

民間を1143円（0.31%）下回っている

①行政職給料表

- ・初任給：高校卒程度4000円、大学卒程度3000円引上げ
- ・20歳代半ば〜30歳代前半までの職員が在職する号給について改定

②その他の給料表

行政職給料表との均衡を基本に改定

2. 特別給（ボーナス）

- ・民間の支給状況に見合うよう引上げ
- 4.30月分→4.40月分
(再任用職員2.25月→2.3月)
- ・引き上げ分は勤勉手当に配分

3. 改定期期

2022年4月1日

働きやすい職場づくりが必要不可欠

人事委員会は「意見」として、「少子高齢化の進展や生産年齢人口の減少、デジタル化の進展、大規模災害や感染症リスクの増大など、本府を取り巻く社会情勢が大きく変動している。将来にわたって質の高い行政サービスを提供し続けるためには、こうした社会情勢の変化に適応できる有為な人材を確実に確保し、計画的に育成することが不可欠」と、人材の確保と育成働きやすい職場が必要であることを指摘しています。そのうえで「女性職員を含め、すべての職員にとって働きやすい職場環境づくりや仕事と家庭の両立支

援をさらに推進」「高齢期職員が培ってきた知識・経験を活かせる業務への配置が重要」と述べました。
また、深刻な時間外勤務の実態を指摘するとともに「長時間労働は正に向けた取組みを一層進めていくことが必要」と述べ、長時間労働を適切に把握した上で、長時間労働の要因の整理・分析・検証を行い、その結果を踏まえ、業務量削減や業務の効率化、人員の適正な配置等の時間外削減に向けた具体的な対策に取組む必要があると指摘しています。

10月27日に秋季年末要求書を提出

若手をはじめ子育て世代も含めた大幅な賃上げを

要求書の提出にあたり、大阪府関連労働組合連合会（以下、府労組連）の北川美千代委員長は、新型コロナウイルスで大阪の死者数が全国ワーストであることに触れ、公務公共サービスを削り、経済優先・大型開発優先の施策ではなく、府民のいのちや暮らしを最優先に、福祉・医療・教育を充実した施策をすすめるよう要請しました。

要求書を受け取った海老原副知事は、「コロナ対策について、府民の健康を守ることを第一に、

全庁を挙げて取り組んできた職員に感謝申し上げます」と述べ、各職場で奮闘している職員の給与・勤務条件に係る重要なものと認識し、誠実に協議すると答えました。
大障教は府労組連に結集し、すべての職員・教職員・非常勤職員・再任用職員の賃上げ、労働条件の改善など、引き続き教職員の要求前進をめざして奮闘します。

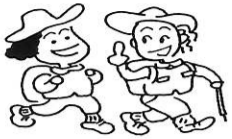
大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の

rusuju

5歳の娘が幼稚園で芋掘りをしてさつま芋を持ち帰ってきた。「大きいお芋いっぱいね」と伝えると満足気な表情。「早くみんなでお芋よう！」と早速妻にお願いをして、やき芋を作ってもらい家族みんなで食べた。「美味いお芋ありがとね。」と伝えると、娘は満面の笑みを浮かべていた。がんばって自分で収穫したさつま芋を家族みんなから笑顔でほめてもらったことで、幼稚園での芋掘り体験を通して、喜びやがんばった自分を感じて自信を深めた。

先日、教え子たちとも学校の畑で芋掘りをした。友だちと一緒力を合わせて夢を引っ張り、蔓の先に連なる大きなさつま芋にみんなで大興奮して盛り上がった。子どもたちは、収穫したお芋をいっしょ増してキラキラした眼差しで見つめたり、土にまみれたお芋を手に取って何度も数えたりして、芋掘り体験を通して一人ひとりが五感で学んでいた。お芋が入った袋を嬉しそうに鞆の中に詰め込んで帰った子どもたちは家庭でたくさん褒めてもらい、家族の声とともに後日連絡帳には喜びの様子が記載されていた。芋掘りは、支援学校では何気ない毎年のルーティーン行事だが、生活に根ざした学習の中で、友だちや先生たちと一緒に楽しく学ぶ体験や、家庭で喜びを共有して褒めてもらう体験等から得られる達成感は、子どもたちにとってかけがえのない経験だと感じる。机上での学習が年々増える支援学校において、これまでの教育で大切にしてきた生活に根ざした体験的な学習の大切さをあらためて実感した。
これからも子どもたちがいきいきと輝く学びを大切にしていきたい。



集まれば元気！ 分会・専門部のとくみ



中南河内ブロック 教育のつどい

9月3日、八尾市内で中南河内ブロックの教育のつどいを開催しました。つどいでは、渡辺俊介さん(富田林支援分会)、東耕平さん(藤井寺支援分会)、荒谷美里さん(東大阪支援分会)、岡村聡さん(八尾支援分会)の報告を受け、参加者で討議をしました。

渡辺さんは、自身の失敗経験をもとに、子どもの安全をチームで守ることの重要性を指摘しました。東さんは、職場に新しい同僚が赴任した



自作教材や、教育で大切にしたいことを交流しました

時、自身の初任当時のことを思い出して関わるようにしていると報告しました。荒谷さんは、自作教材を紹介しつつ、自身のこれまでの経験から、学校運営に関して「自分たちで考えて、自分たちで決める」ことの重要性を語りました。岡村さんは、自身が初任者だった頃から今を振り返り、「民主的な運営」が子どもと教育を守るために大切であると述べました。

コロナにより三年ぶりの開催となった中南河内ブロックの教育のつどいでしたが、無事に開催出来て良かったです。教育で大切にしたいことを参加者全員で交流できた有意義な集会成为りました。

田崎 尚弘(藤井寺支援学校分会)

青年部 山登り企画！「ポンプン山」

青年部交流企画として「山登りに行く」と計画した取り組みでしたが、せっかくの機会なので大障教だけでなく、学校種を問わず広く参加を呼びかけ、10月9日(日)に「ポンプン山」(高槻市)に行きました。当日は午後から雨の予報が出ていたため、時間を短縮するなど当初の予定を変更しました。中には、家族で参加された方もいて、終始和やかな雰囲気です。

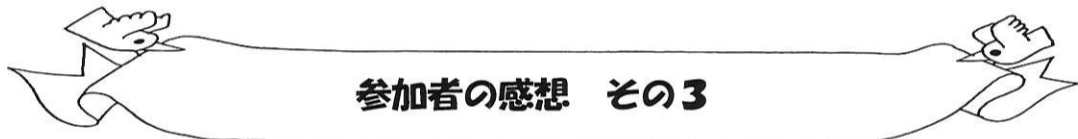
山登りをするのができました。参加者からは「ポンプン山のハイキングは、山行を早めたおかげで雨にも当たらず、楽しく終わりました。初めて会う人たちとも

山道の中で自然と話が進みましたなどの感想が寄せられました。今後も多くの方が楽しく交流できるような企画をしていきます。やりたいことがあれば、どしどし青年部までお寄せください。多くの方の参加をお待ちしています！



頂上で記念撮影をしました！

2022年原水爆禁止世界大会 広島



「何か突き動かされると、じっとせずにはいられない」これが僕の性格なんだろうなあと思ってきました。学生時代、「第五福竜丸展示館」への見学や、「若者憲法集会」へ参加したこともあり。安全保障関連法案(安保法制)が強行採決された2015年のこと。あの時も、何か時代が変わっていく気がし、けれど「何を大切にしたいのかを考えた」「自分の中で何かできないか」と無我夢中に学びました。

今回も2月24日ロシアによるウクライナ侵略が始まり、多くの一般市民が戦争の犠牲になり、国内外に多数の避難者が現れました。戦後予想もしなかった「戦争」が目の前で起こっている現状に、「自分は何ができるのか」を考えていました。偶然にも3年ぶりに原水爆禁止世界大会が現地で開催されることを知り、真っ先に「現地へ行きたい!」と思ってきました。現地に行って改めて「平和」について考えたいということが、今回参加した主な理由でした。今回同じ世代の青年の先生方といっしょに参加できたことはとても嬉しく、頼もしいことでした。

8月4日から3日間の日程でしたが、全体会や国際会議では、世界各国の方々から話を聞くことができました。まず大会に寄せられたメッセージの中で「核抑止論が勢いづいていることを危惧しているが、実際には核兵器の存在が安全保障にも大きなリスクをもたらす」とことが示されていました。

今大会では、ウクライナやロシアの方の発言にも注目が集まりました。発言したウクライナの方は、ウクライナがこれまで核兵器を削減してきたことに言及した上で「核戦争で利益を得る国家はない」「非暴力の抵抗をすべき」と話していました。ロシアの発言者の方も「(今回の戦争は)大統領が独断で決めてしまった」とした上で、ロシアでは今異論を唱えれば「非国民」とされ、インターネットやメールも監視されているという国内事情を教えてくださいました。ウクライナとロシアの戦争の被害を受けているのは一般市民であり、平和を求めて尽力している方々がおられることを物語っていました。

また被爆者の方からの証言も聴くことができました。7歳で被爆された児玉さんは、「この世の地獄を見た」と当時を振り返られました。幸い軽症だったものの、戦後も就職や結婚の場面で、差別や偏見があり心の痛みを感じていたことも話されていました。「(今後も)被爆者は力の限り原爆の悲惨な状況を伝えていく」と最後に力を込めて言われた言葉には、核兵器による被害を二度と繰り返さないという強い想いを伝えてくれました。こうして今回直接話を聴くことで、実際の核爆弾の被害や今後の平和な世界への被爆者の想いを感じ取ることができました。こうしたことは、テレビや伝え聞きだけではきっと得られなかったと思います。

広島平和記念公園の平和都市記念碑(原爆死没者慰霊碑)には次の文字が刻まれています。「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませんから」先の戦争で犠牲になった方々へ、今同じ言葉をかけられるのでしょうか。ロシアによるウクライナ侵略は今なお続いています。それどころか、核爆弾を使用することも辞さない構えで、「脅し」すらかけている状態です。驚きあきれることに、唯一の戦争被爆国である日本からも「核共有の議論」という声すら聞かれ始めています。戦争によって、武力によって「平和」な世の中を創ることはできません。犠牲者だけでなく、残された人々をも不幸にします。それは先の戦争でわかった、教訓とすべき事実です。「核の傘下」にしがみつ、核共有の方向に進めるのではなく、原爆の脅威と戦争の愚かさを知っている、この国だからこそ、核兵器禁止条約に直ちに署名するべきだと思います。それが核無き世界に向かう唯一の道だと思ふからです。こうした責務を果たすことではじめて、「過ちは繰り返しませんから」と言えるのではないのでしょうか。僕自身も被爆者の想いを受け止めて、戦争の悲惨さ・愚かさ、そして「戦争は最大の人権侵害」だということを、これからも伝えていきたいと思っています。

(堺支援学校大手前分校 奥 正行)